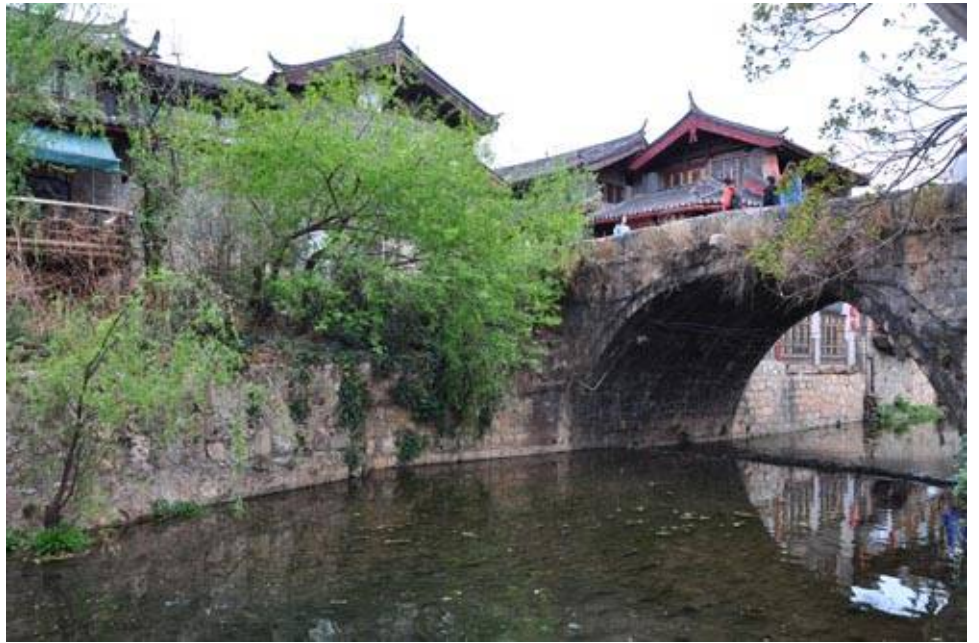


青龍川

下の街から青龍川の川辺に降りる道がついている。仰ぎ見ると青龍橋と上の街の建物が見えた。

清流に掛けられたアーチ型の古い石橋。木の緑を配した中国風の建物。良い眺めである。ちなみに橋の向うの建物は茶館（カフェ）左の建物はレストランになっている。オープンテラスもある。川と対岸の古い街並を見ながらの一服が出来る所だ。



川辺を上流方向に行くと河川敷が広がり畑になっている。左はまだ橋に近い。菜の花畑の先に下の街の商店街がある。ここまでは観光客も多い。菜の花畑に入って記念写真を撮っている。上流に行くにつれ右の様に河川敷がさらに広くなり、葉物の畑が続く。街も狭くなり、畑のはじの土手が表通りになり、そこに路地がついている。



畑には川から引いた農業水路が走り、洗い場が備え付けられていた。家の造りも農家風になってくる。ここまで来ると、河川敷の感じはない。畑地になっている。おそらく集落の向こう側に遠くまで続いているに違いない。

青龍橋から下流の方向では川巾が広がり淵になっている。



東河古鎮は緑と水が豊富な田園風景が楽しめる宿場町であった。麗江の古街区は古い建物が残されているが、その周りにはビルが建ち都市化してきている。麗江に来るならば是非ここまで足を伸ばしてもらいたい場所である。

後から知ったことだが、土司としてこの地域を治め、麗江に王宮を築いた木氏がこの出身で住居がある。そしてそこが博物館として茶馬古道往時の写真と道具類が展示されているらしい。それを見付けられなかったのは残念でならない。

街中で見た人々



路上農産物直売所が方々にある。近くの農家から運んで来たものだろう。新鮮で美味しそうだ。側の水路で洗いながら盛り付けている。都会からの観光客が物色していた。



食堂の前に籠に入った鶏や盥に入れた魚等が並べてある。これは売り物ではない。その店で使う食材である。中国の地方の料理屋ではよく見掛ける光景だ。使用する食材を見て、店を決める人もいる。ショーウインドウなのだ。鯉を置いている店の前では子供が泳ぐ鯉をあかずに眺めて遊んでいた。





道端に焼きいも売りがいた。スナックを売っている店もある。麗江名物と書いてある。手前の串焼きはヤクの肉だ。



表通りの一角にある小さな食堂があった。店の中だけでなく屋外にもテーブルを並べている。



人気がある様だ。看板から判断して、米で作った麺を専門にしているらしい。ベトナムのホーに似たものだろう。小腹が空いた時には、入ってみても良いと思わせる店である。

近くに銀山がある雲南省のこの地域には銀細工や銀器を扱っている店が多い。東河でも見掛ける。



左の「銀鍋楼」の大きな銀製の中華鍋は人目を引く。右は中で銀細工の加工を職人がやっている。なぜか両方共地元の人たちがたむろって語らっていた。これが村の人たちの普段の姿なのだろう。